

科目名	地理総合		必履修	使用教材	新地理総合（帝国書院） 新詳高等地図（帝国書院） 新地理資料 COMPLETE2023（帝国書院）
学年 学級	1 年全クラス	単位数	2	教科 担当	長村、木内

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期	<p>第 1 部 地図でとらえる現代世界</p> <p>第 1 章 地理情報とシステム</p> <p>地球上の位置と時差／地図の役割と種類</p> <p>第 2 章 結び付きを深める現代世界</p> <p>現代世界の国家と領域／グローバル化する世界</p> <p>第 2 部 国際理解と国際協力</p> <p>第 1 章 生活文化の多様性と国際理解</p> <p>生活文化の多様性／世界の地形と人々の生活／世界の気候と人々の生活／世界の言語・宗教と人々の生活</p>	<p>第 1 部</p> <p>第 1 章：地図や地理情報システムの役割や有用性などについて理解するとともに、情報の収集、読図、まとめる技能を身に付ける。</p> <p>第 2 章：世界的視野から見た日本の位置、国内や国家間の結び付きなどを多面的・多角的に考察する。</p> <p>第 2 部</p> <p>第 1 章：世界の人々の生活文化について、多様性や変容の要因などを多面的・多角的に考察する。</p>
2 学期	<p>歴史的背景と人々の生活／世界の産業と人々の生活</p> <p>第 2 章 地球的課題と国際協力</p> <p>複雑に絡み合う地球的課題</p> <p>地球環境問題／資源・エネルギー問題</p> <p>／人口問題／食料問題／都市・居住問題</p>	<p>第 2 章：世界各地で見られる環境、資源・エネルギー、人口、食料、都市問題などの地球的課題について、現状や要因、解決の方向性などを多面的・多角的に考察するとともに、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>
3 学期	<p>第 3 部 持続可能な地域づくりと私たち</p> <p>第 1 章 自然環境と防災</p> <p>日本の自然環境／地震・津波と防災／火山災害と防災／気象災害と防災／自然災害への備え</p> <p>第 2 章 生活圏の調査と地域の展望</p> <p>生活圏の調査と地域の展望</p>	<p>第 3 部</p> <p>第 1 章：自然環境と防災について、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p> <p>第 2 章：生活圏の調査と地域の展望について、そこで見られる課題を主体的に解決しようとする態度を養う。</p>

科目名	歴史総合		必履修	使用教材	現代の歴史総合 みる・読みとく・考える (山川出版社) 歴史総合用語解説 (山川出版)
学年 学級	1 学年 普通科・創造理数科	単位数	2	教科 担当	武藤 津野田

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学期 中間検査まで	第 1 章 結びつく世界と日本の開国 18 世紀の東アジアにおける社会と経済 貿易が結んだ世界と日本 産業革命 中国の開港と日本の開国 第 2 章 国民国家とナショナリズム 市民革命 国民国家とナショナリズム	第 1 章 アジア諸国と欧米諸国の関係の変容のなかで、伝統と文化、交流について主体的に学習に取り組む。 第 2 章 国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う
1 学期 期末検査まで	明治維新 日本の産業革命 帝国主義 変容する東アジアの国際秩序 日露戦争と東アジアの変動 近代化と現代的な諸課題	第 2 章 国民国家や帝国主義の特徴、植民地とされた地域について学び、他国を尊重する態度を養う
2 学期 中間検査まで	第 3 章 総力戦と社会運動 3 ヴェルサイユ体制とワシントン体制 ～第 4 章 経済危機と第二次世界大戦 3 日中戦争への道	第 3 章 第一次世界大戦後の国際協調体制の成立と限界について理解を深め、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う 第 4 章 第二次世界大戦の惨禍や大戦下の人々の生活を通して、生命を尊ぶ態度を養う。
2 学期 期末検査まで	第 4 章 経済危機と第二次世界大戦 4 第二次世界大戦の展開 ～第 5 章 冷戦と世界経済 2 東西両陣営と 1960 年代の社会	第 5 章 冷戦下の紛争地域と脱植民地化や地域連携について学び、他国を尊重し、国際社会の平和について考察できる。
学年末 検査まで	第 5 章 冷戦と世界経済 3 軍拡競争から緊張緩和へ ～第 6 章 世界秩序の変容と日本 10 現代と私たち	第 6 章 地域紛争が多発する現代における国際連合の役割と安全保障の問題などの事例を通して、正義と責任、および国際平和について考察できる。

科目名	世界史探究		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	山川出版社（詳説世界史） 山川出版社（世界史用語集） 浜島書店（アカデミア世界史）
学年 学級	2年A～G組	単位数	2	教科 担当	津野田・八木橋・小板橋

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間 考 査 ま で	第1章 文明の成立と古代文明の特質 ・文明の誕生 ・古代オリエント ・南アジアの古代文明 ・中国の古代文明 ・南北アメリカ文明	人類の誕生と古代文明の成立と発展を、各文明圏を対比しながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末 考 査 ま で	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界 ・草原とオアシスの世界 ・秦漢帝国 ・中国の動乱と変容 ・東アジア文化圏の形成 第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開 ・仏教の成立と統一国家の形成 ・インド古典文化の形成 ・東南アジア世界の形成と展開	中央ユーラシア世界を中心に、遊牧世界と農耕世界の関係性の中から、アジア古代世界の形成について考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
2 学 期	中間 考 査 ま で	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成 ・イラン文明 ・ギリシア人の都市国家 ・ローマと地中海世界 ・キリスト教の成立と発展	西アジアを含めた地中海世界の形成と展開過程について、その特徴を宗教と関連させながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末 考 査 ま で	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成 ・アラブの大征服とイスラーム政権の成立 ・ヨーロッパ世界の形成 第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向 ・イスラーム教の伝播 ・西アジアの動向	イスラーム教の成立と発展、および世界史への影響について、キリスト教世界の成立と対比しながら考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
3 学 期	学年末 考 査 ま で	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開 ・西ヨーロッパの封建社会と展開 ・東ヨーロッパ世界の展開 ・西ヨーロッパ世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化	中世ヨーロッパ世界の成立と展開について、東西の対立と協調という側面から考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。

評価の観点	関心・意欲・態度	思考判断	技能・表現	知識・理解
	・授業中の発問に対して積極的に応答している。真面目に授業を受け、プリントやノートを工夫している。課題に対して積極的に取り組み、提出状況もよい。	歴史的事項について、その原因や背景について考察し、また、それがその後の世界にどのような影響を及ぼしたか考えることができる。また、それらについて討論できる。	・歴史的事項や人物について調べたことをまとめ、それらに対する自分の考えを語句で適切に表明することができる。	・世界の歴史に対する基本的事項を知り、因果関係などについて把握・理解している。
評価方法	行動観察・課題	考査・課題	課題・考査	考査

科目名		日本史探究		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	日本史探究（東京書籍） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）
学年 学級	2年A～G組	単位数	2	教科 担当	大野・武藤	

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査まで	オリエンテーション 旧石器時代の日本 弥生文化と小国家の形成 歴史資料と先史・古代の展望 大和王権と古墳文化 飛鳥の朝廷と文化 律令国家の形成と白鳳文化 平城京と天平文化	日本列島における人類の生活のはじまりについて考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末考査まで	平安遷都と唐風文化 貴族社会と摂関政治 国風文化 朝廷世界の変容 武士の政治進出 歴史資料と中世の展望	平安時代から中世のはじまりにかけての日本列島の歴史について考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
2 学 期	中間考査まで	鎌倉幕府の誕生 執権による政治 モンゴル襲来と社会の変貌 鎌倉の仏教と文化 南北朝の動乱と室町幕府の成立 倭寇と東アジア国際交流 室町時代の社会と経済活動 自立する戦国大名	中世から近世のはじまりにかけての日本列島の歴史について、世界の中の日本の視点をふまえて考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
	期末考査まで	室町文化 地球的世界の形成と日本 織豊政権による全国統一 桃山文化 歴史資料と近世の展望 江戸幕府と大名・朝廷 近世の身分と人々の暮らし	日本の近世社会について、世界の中の日本の視点をふまえて考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。
3 学 期	学年末考査まで	アジアのなかの幕藩体制 武断政治から文治政治へ 幕藩体制下の社会の発展 享保の改革と経済の発展 近世社会の成熟と危機の始まり 幕藩体制の立て直し 幕藩体制の動揺 開国と開港 幕府の崩壊と明治維新	日本の近世社会の展開と近代のはじまりについて、世界の中の日本の視点をふまえて考察する。その際、基本的な史料などを用いることで、生徒が主体的に歴史像を構築できるよう配慮する。

科目名	公共		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	公共（実教出版） 最新図説 公共（浜島書店）
学年 学級	2 年全クラス	単位数	2	教科 担当	山田駿 和智博雄

期 間	授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間 考 査 ま で 第 1 部 公共の扉 倫理分野 第 1 章 社会を作る私たち 第 2 章 人間としてよく生きる 第 3 章 他者とともに生きる 第 4 章 民主社会の倫理	・人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いの様々な立場を理解し高め合うことのできる社会的な存在であること、伝統や文化、先人の取組や知恵に触れたりすることなどを通して、自らの価値観を形成するとともに他者の価値観を尊重することができるようになる存在であることについて理解させる。
	期 末 考 査 ま で 政治分野 第 5 章 民主国家における基本原理 第 2 部 よりよい社会の形成に参加する私たち 第 1 章 日本国憲法の基本的性格 第 2 章 日本の政治機構と政治参加	・各人の意見や利害を公平・公正に調整することなどを通して、人間の尊厳と平等、協働の利益と社会の安定性の確保を共に図ることが、公共的な空間を作る上で必要であることについて理解させる。 ・個人の尊重、民主主義、法の支配など、公共的な空間における基本的原理について理解させる。
2 学 期	中 間 考 査 ま で 経済分野 第 1 章 現代の経済社会 第 2 章 日本経済の特質と国民生活	・雇用と労働問題、財政及び租税の役割、少子高齢社会における社会保障の充実・安定化、市場経済の機能と限界、金融の働きなどに関わる現実社会の事柄や課題を基に、公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解させる。
	期 末 考 査 ま で 国際分野 第 1 章 国際政治の動向と課題 第 2 章 国際経済の動向と課題	・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現させる。
3 学 期	学 年 末 考 査 ま で 第 3 部 持続可能な社会づくりの主体となる 私たち	この科目のまとめとして位置付け、社会的な見方・考え方を総合的に働かせ、第 1 部で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理などを活用するとともに、第 1 部及び第 2 部で扱った課題などへの関心を一層高める

科目名	地理B		自由選択	使用教材	新詳地理B(帝国書院) 新詳高等地図(帝国書院) 新詳地理資料2021(帝国書院) データブックオブザワールド2023(二宮書店) 地理の整理と演習2023(とうほう)
学年 学級	3年選択	単位数	2	教科 担当	長村嘉浩

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	期末考査まで	<p>第1部 さまざまな地図と地理的技能</p> <p>第2部 現代世界の系統的地理的考察</p> <p>1章 自然環境</p> <p>2章 資源と産業</p> <p>3章 人口、村落・都市</p>	<p>地図の種類と利用について理解し、地図を活用して現代世界の地理的事象を捉える地理的技能を身につける。世界の地形の概要と分布について理解する。また、自然環境と人間の生活との関連を理解する。</p> <p>世界各地の農業・水産業・鉱工業・資源の共通性と地域的特殊性を理解する。世界人口の分布の特徴や動態を理解する。村落と都市について、立地や発達・機能や日本の都市の特徴を理解する。</p>
2 学 期	期末考査まで	<p>4章 生活文化、民族・宗教</p> <p>第3部 現代世界の地誌的考察</p> <p>1章 現代世界の地域区分</p> <p>2章 現代世界の諸地域</p> <p>3章 現代世界と日本</p>	<p>衣食住について共通性と地域的差異を理解する。世界の各地域について、自然、歴史と文化・民族、産業という多様な事象を理解し、地理的諸課題について考察する。</p> <p>世界の各地域について、自然、歴史と文化・民族、産業という多様な事象を理解し、地理的諸課題について考察する。</p>
3 学 期	学年末考査まで	共通テスト対策等の演習	共通テスト・センター試験・私大の過去問や対策問題を解けるようにする。

科目名	世界史B			使用教材	山川出版社 (詳説世界史) 山川出版社 (用語集) 浜島書店 (アカデミア世界史)
学年 学級	3年 必選	単位数	4単位	教科 担当	八木橋

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ・先史の世界 ・ギリシア世界 ・ローマ世界 ・西ヨーロッパ世界の成立・東ヨーロッパ世界の成立 ・西ヨーロッパ中世世界の変容 ・西ヨーロッパの中世文化 ・南北アメリカ文明 ・南北アメリカの発展 	地理的事項が多く登場するので、地図での確認作業をこまめにおこない、地理的關係を把握する。特にヨーロッパ・アメリカ大陸の歴史についての学習を深める。
	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ・古代オリエント世界 ・イスラーム世界の形成 ・イスラーム世界の発展 ・イスラーム文明の発展 ・アフリカのイスラーム化 	地理的事項が多く登場するので、地図での確認作業をこまめにおこない、地理的關係を把握する。特に中東地域の歴史についての学習を深める。
2 学 期	中間考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ・インドの古典文明 ・インドのイスラーム化 ・トルコ・イラン世界の展開 ・ムガル帝国の興隆 ・オスマン帝国支配の動揺と西アジア地域の変容 ・南アジアの植民地化 ・東南アジアの諸文明 ・東南アジアのイスラーム化 ・東南アジアの交易 ・東南アジアの植民地化 	地理的事項が多く登場するので、地図での確認作業をこまめにおこない、地理的關係を把握する。特に南アジア・西アジア・東南アジア地域の歴史についての学習を深める。
	期末考査まで	<ul style="list-style-type: none"> ・中国の古典文明 ・草原の遊牧民とオアシスの定住民 ・北方民族の活動と中国の分裂 ・東アジア文化圏の形成 ・東アジア諸地域の自立化 ・モンゴルの大帝国 	地理的事項が多く登場するので、地図での確認作業をこまめにおこない、地理的關係を把握する。特に中国の歴史についての学習を深める。
12月以降		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎力向上講習 ・共通テスト対策 ・論述指導 ・その他指名制の講習 	他教科とのバランスを考慮しつつ、共通テスト・二次試験のための論述対策・私大対策を実施する。

科目名	分野とテーマから考える世界史B			使用教材	山川出版社（詳説世界史） 山川出版社（世界史用語集） 浜島書店（アカデミア世界史）
学年 学級	3年 選択	単位数	2	教科 担当	八木橋

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査まで	帝国主義とアジアの民族運動 ・ 帝国主義と列強の展開 ・ 世界分割と列強対立	ヨーロッパを中心とした「世界」が形成されていく過程を把握するとともに、アジア・アフリカなどの動向にも注目する。
	期末考査まで	二つの世界大戦 ・ 第一次世界大戦とロシア革命 ・ アジア諸国の改革と民族運動	
2 学 期	中間考査まで	二つの世界大戦 ・ ヴェルサイユ体制下の欧米諸国 ・ アジア、アフリカ地域の民族運動 ・ 世界恐慌とファシズム諸国の侵略 ・ 第二次世界大戦	第一次世界大戦と第二次世界大戦について様々な視点をもとに考察する。
	期末考査まで	冷戦と第三世界の独立 ・ 戦後世界秩序の形成とアジア諸地域の独立 ・ 米ソ冷戦の激化と西欧・日本の経済復興 ・ 第三世界の台頭と米・ソの歩み寄り ・ 石油危機と世界経済の再編 現在の世界 ・ 社会主義世界の変容とグローバリゼーションの進展 ・ 途上国の民主化と独裁政権の動揺 ・ 地域紛争の激化と深刻化する貧困 ・ 現代文明の諸相	第二次世界大戦終結後の冷戦構造について理解し、現代に直結する諸問題について考察する。「現代」が抱える様々な問題のきっかけについて理解する。
2学期期末考査後		共通テスト対策、私大対策、論述対策	受験対策の演習を通じて知識を確実なものとする。

科目名	日本史B		選択必修	使用教材	詳説日本史B（山川出版社）、新詳日本史（浜島書店）、新詳述日本史史料（実教出版）実力をつける日本史100題（Z会）
学年 学級	3年 選択	単位数	4	教科担当	武藤

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査まで	第1章 日本文化のあけぼの 1 文化の始まり、2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権 第2章 律令国家の形成 1 飛鳥の朝廷、2 律令国家への道 3 平城京の時代	日本文化のあけぼのから縄文・弥生文化を経て国家の形成が進められ、飛鳥地方を中心とするヤマト政権による国土の統一と、古代律令国家の成立から、繁栄に至る流れを理解する。
	期末考査まで	第3章 貴族政治 1 摂関政治 2 律令国家の形成 3 地方政治の展開と武士 第4章 中世社会の成立 1 院政と平氏の台頭、2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会	律令体制における中央・地方政治の展開と衰退。また、武士団の台頭による公家政権から武家政権成立への政治の流れと、武家社会の特質を理解する。
2 学 期	中間考査まで	4 蒙古襲来と幕府の衰退 第5章 武家社会の成長 1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 4 戦国大名の登場	中世の武家政権を把握すると共に、惣村や町衆といった庶民の台頭及び、応仁の乱以降の幕府体制衰退に伴う、全国的な争乱を理解する。
	期末考査まで	第6章 幕藩体制の確立 1 織豊政権 2 幕藩体制の成立 第7章 幕藩体制の展開 1 幕政の安定 2 経済の発展	信長・秀吉の統一事業が幕藩体制の確立に至ることを把握する。また、鎖国体制や身分制の確立及び江戸初期における産業・経済の発展を理解する。
	2学期 期末考査 以降	第8章 幕藩体制の動揺 1 幕政の改革 2 幕府の衰退と近代へ道 ：テーマ史の講義を行う	幕政改革（三大改革）及び、欧米列強の接近から国際環境を理解する。 ：テーマ史の講義と問題演習を行う

科目名	分野と地域から考える 日本史		必履修 学校必履修 選択必履修	使用 教材	詳説日本史B（山川出版社） 新詳述日本史史料集成（実教出版） 新詳日本史（浜島書店） 日本史用語集（山川出版社）
学年 学級	3年 自由選択	単位数	3	教科 担当	大野 武藤

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査まで	二つの世界大戦と日本 1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容	第一次世界大戦前後における日本国内外の政治・経済の特徴を理解する。
	期末考査まで	4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦 占領下の日本 1 占領と日本 2 冷戦の開始と講和	第二次世界大戦に至る昭和期の政治・経済・外交についてその変遷、特徴を理解する。占領期から国際社会復帰までの国内情勢について理解する。
2 学 期	中間考査まで	高度成長の時代 1 55年体制 2 高度成長 近代文化 1 幕末の文化、 2 明治文化、 3 大衆文化 4 戦中文化、 原始文化 1 旧石器・縄文・弥生文化、 2 古墳文化、	高度成長期の国内政治・経済を中心にその変遷及び特徴を理解する。 開国にともなう欧米文化の流入と摂取、及び近代国家形成期における国際社会との関連の中で成立した、近代文化の特徴と変遷を理解する。日本文化のあけぼのから、古墳文化までを理解する。
	期末考査まで	古代文化 1 飛鳥文化、 2 白鳳文化、 3 天平文化、 4 弘仁・貞観文化、 5 国風文化 中世文化 1 院政期の文化、 2 鎌倉文化、 3 室町文化（北山・東山・戦国） 近世文化 1 桃山文化 2 寛永文化 3 元禄文化、 4 宝暦・天明期文化 5 化政文化	古代国家の精神的基盤である仏教文化の成立から皇族・貴族主体の国風・院政期文化、日本最初の武家文化の成立及び、室町期における庶民文化の台頭、現代日本文化の源流としての中世文化の特徴と変遷を理解する。 幕藩体制の成立により、安定した世相を背景に、都市・経済の発達にともない、豪商・町人が文化の担い手となり町人文化が形成され、学問・思想などが発達した近世文化の特徴と変遷を理解する
3 学 期	学年末考査 まで	時代・分野別問題の分析 国公立2次論文対策の個別指導を行う	共通テスト及び早慶・国公立2次試験の問題の解決法を理解する

科目名	現代社会		必履修	使用教材	『現代社会（東京書籍）』・『最新図説 現社（浜島書店）』
学年 学級	3年理系・SSH	単位数	2	教科担当	野口 英法

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査および期末考査まで	<p>青年期と自己形成の課題</p> <p>現代社会と青年の生き方</p> <p>よりよく生きることを求めて</p> <p>日本国憲法と民主政治</p> <p>民主政治とは</p> <p>日本国憲法の基本原理</p> <p>日本の政治機構</p>	<p>青年期と自己形成の課題や日本国憲法と民主政治について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>（これらの内容については、必要に応じて放課後講習も実施する。）</p>
2 学 期	中間考査および期末考査まで	<p>現代政治の特質と課題</p> <p>現代社会と法</p> <p>現代の経済と国民福祉</p> <p>変化する日本経済</p> <p>豊かな生活の実現</p> <p>国際社会と人類の課題</p> <p>国際政治のしくみと動向</p> <p>現代の経済と国民福祉</p> <p>経済のしくみ</p> <p>国際社会と人類の課題</p> <p>国際経済のしくみと動向</p> <p>国際社会の現状と課題</p>	<p>日本国憲法と民主政治や現代社会と法、現代の経済と国民福祉や国際社会と人類の課題について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>また、現代の経済と国民福祉について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>さらに、国際社会と人類の課題について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>（これらの内容については、必要に応じて夏期講習も実施する。）</p>
12月以降		入試直前演習講座（全領域からの演習問題）	総まとめ

科目名	倫理		選択必修修	使用教材	高等学校 新倫理 新訂版（清水書院） テオリア 最新倫理資料集（第一学習社）
学年 学級	3年文系	単位数	2	教科担当	山田 駿

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間検査・ 期末検査まで	第1編 現代に生きる自己の課題 第1章 人間とは何か 第2編 人間としての自覚と生き方 第1章 人生における哲学 第2章 人生における宗教 第1節 キリスト教 第2節 イスラーム 第3節 仏教 第3章 人生の知恵	・青年期の意義と課題、パーソナリティーの形成について理解する。 その際に自己とのかかわりの中で理解できるようにする。 ・人間が考えることや、宗教の持つ意義を理解させ、それをもとに善く生きるとはどのような生き方かを考える。生きることについての価値を考える。
2 学 期	中間検査・ 期末検査まで	第3編 現代社会と倫理 第1章 現代の倫理的課題 第2章 現代に生きる人間の倫理 第1節 人間の尊厳 第2節 自然や科学技術と人間とのかかわり 第3節 民主社会における人間のあり方 第4節 自己実現と幸福 第5節 個人と社会とのかかわり 第6節 現代における理性の問題	・近代の西洋思想について、経験論と合理論の特徴および科学的な思考との関連について理解する ・社会契約説と民主社会成立の関連について理解する ・社会主義や実存主義等、近現代の思想が登場した背景およびその内容について理解する (必要に応じて講習等を実施することもある)
3 学 期	学年末検査まで	第4編 国際社会に生きる日本人の自覚 第1章 日本の風土と外来思想の受容 第5章 現代の諸課題と倫理 問題演習	・日本の風土や文化的伝統と日本人独自の価値観との関連性について理解する ・環境破壊・生命倫理など現代の課題について理解する (必要に応じて講習等を実施することもある)

科目名	政治経済		必履修	使用教材	『高等学校 新政治・経済 新訂版（清水書院）』・『最新図説 政経（浜島書店）』
学年 学級	3年文系	単位数	2	教科担当	野口 英法

期 間		授 業 計 画	到達目標
1 学 期	中間考査および期末考査まで	<p>民主政治の基本原則 政治と法、民主政治のあゆみ、民主政治の基本原則とその展開、政治体制の比較など</p> <p>日本国憲法と基本的人権 憲法の成立、基本原則、人権保障など</p> <p>日本の平和主義と安全保障 日本の政治機構 国会、内閣、裁判所、地方自治</p>	<p>民主主義の原理や日本国憲法と基本的人権、日本の平和主義と安全保障や日本の政治機構について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p>
2 学 期	中間考査および期末考査まで	<p>現代日本の政治 行政権の拡大、政党政治と選挙制度、政治参加 国際政治と日本 国際社会の特質、国際社会と国際法、国際組織・機構、戦後国際政治の展開</p> <p>現代日本の経済 戦後日本経済、農業問題、中小企業問題、情報化、公害、消費者問題、労働問題、社会保障制度 現代経済の特質 価格機構と政府の役割、現代企業と社会的責任、経済成長と景気変動、金融と財政など</p> <p>国際経済と日本 貿易と国際収支、国際経済のしくみ</p>	<p>現代日本の政治や国際政治、現代日本の経済について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>また、現代経済の特質について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>さらに、国際経済と日本について正しく理解し、現実と結びつけて解決策を考察することができる。</p> <p>（これらの内容については、必要に応じて夏期講習も実施する。）</p>
12月以降		入試直前演習講座（全領域からの演習問題）	総まとめ